

777 中央大学記事（中央大学の罹災・学長の交代・授業の開始・新講座の開始・維持基金払込額及び氏名）

〔『法学新報』第33卷10（382）号 大正12年11月10日〕

○中央大学記事

○中央大学の罹災 去る九月一日午前十一時五十八分突如として広大なる区域に大惨害を与へ帝國政治機関の中樞たる帝都も激震に驚愕し狼狽して市民の街上に避難する際は既に全市は百三十余箇所より火の手を揚げ中央大学は同日の夕刻不幸復々祝融の災に罹りたり回顧すれば本学校舎は明治二十五年四月の

神田大火の際一度烏有に帰し同年八月四百余坪の煉瓦石造家屋を再築し次て明治三十八年創立二十年に際し出身者諸氏は醜金して二百五十坪の木造二階建記念館を築造したり然るに校運漸次隆盛に向ひ従来の校舎は狭隘を告ぐるに至れるを以て創立二十五年記念として出身諸氏は更に校舎の増築を企て明治四十三年十一月を以て建坪三百七十九坪余の増築を竣成したり而して新大学令の制定せらるべきを予想し且つ近く創立四十年に達すへきを以て模範的大学たるべき計画を立て着々其準備を進め居りたる際不幸大正六年六月再び祝融襲ふ所となり校舎図書挙げて灰燼と化せり止むなく一時元衛町騎兵營跡に仮校舎を設け茲に一年を送り七年九月錦町校舎の再築竣工して復帰授業を開始したり折から新学令の公布あり同令の定むる所に依れば基金の供託、専任教授の設置、図書館及図書、校舎の増築等を要求せり併しなから開校匆匆にして校舎器具の復旧に資力を喝くして^(調)余資の存するなければ同人相会し學員諸君を始め大方の同情に訴へて其素志を達すべく大正八年四月を以て基金の募集に着手したり幸に其熱烈なる同情を得て該事業も其緒に就き大正九年四月十六日を以て主務省より新令に依る大学たることの認可をせられ校運も亦年を遂ふて隆昌に赴き従て財政状態も亦良好なるを得剰余金と寄附金とを以て裏手地統の地所を購入し三百坪鉄鋼「コンクリート」の大学予科教室を新築し又工学博士阿部美樹志氏の設計に依り耐震防火の設備を為したる三百三十二坪余の鉄筋「コンクリート」塔家共五階建図書館同しく三百十六坪の鉄筋「コンクリート」三階建新校舎を増築したり而して該

図書館には松岡均平博士の尽力に依り独乙に於て購入したる文庫を基礎として故岡松參太郎博士か渡欧中彼国大学文庫を標準として補充せられたるものを初め高橋文庫、奥田文庫、末松文庫等の法律、経済、商業に関する内外古今の書籍三万余巻を蔵し名実共に私学の權威たらんとする際復々類焼の厄に遭ひ大方の同情と多年理事者の苦心経営に成りたる諸設備の灰燼に帰したるは遺憾極りなりしも不幸中の幸として吾人か爰に特筆すへきは彼の猛火の裏に在りしに拘らす図書館並に新教室残存して大学の魂たる圖書の建築設計者の注意と理事者の苦心に因りて安全なりし事是なり東京帝国大学図書館焼失の今日に在りては文学、経済、商業に関しては慶応、早稲田、東京商科大学の図書館あれとも蓋し法学に関する帝都唯一の図書館たるへし尚ほ中央大学は類焼後直に残存建物の修繕及仮校舎の建築に着手し八百余坪の教室は十月中に完成して十一月一日より授業を開始すべく外に百余坪の「バラック」を造りて学生控所と為し此内に学生の食堂学用品及教科書等の売店を設け開校と同時に学生の授業を受くるには些の不便なからしむべく準備をなしたり

○学長の交代 学長理事法学博士岡野敬次郎氏は学長辞任に付理事法学博士馬場愿治氏に於て学長の事務を取扱はれ岡野博士の理事たることは従来に異なるなし

○授業の開始 来る十一月一日学部大学予科学生は午前十時より専門部学生は午後五時より第四号教室に於て馬場博士より訓示せられ諸般の準備を為された同五日より平常の通

○新講座の開始 今学期より法学博士牧野英一氏は最新の法

律思想を法学士山田準治郎氏は地方自治制を又倫敦正金銀行支店に在りて研究せられたる法学士小仁所由三氏は歐洲の大戦後に於ける財政と金融（英國の部）を開講せらる

○維持基金の払込ありたる額及其氏名左の如し

- 金貳円（七二回分） 今田鎌太郎君
- 金參円（三四回分） 池田 清秋君
- 金貳円（一三回分） 石田 實君
- 金參円五拾錢（八四回分） 稻澤庄次郎君
- 金貳円五拾錢（三四回分） 井上 剛一君
- 金貳円五拾錢（八四、五回分） 岩下 知敦君
- 金壹円五拾錢（四七回分） 稻田周之助君
- 金貳円（三一、二回分） 井上 朗三君
- 金貳円（七九、八〇回分） 原 定男君
- 金貳円五拾錢（四五回分） 橋倉 次雄君
- 金貳円（一六回分） 新田 法教君
- 金貳円（四二、三回分） 西浦 實君
- 金貳拾円（八二、三回分） 堀 竹雄君
- 金五円（三三回分） 豊島 良昌君
- 金貳円（六九、七〇回分） 戸倉惣太郎君
- 金貳円（七四、五回分） 徳田 直吉君
- 金貳円（一九、二〇回分） 徳永 平次君
- 金貳円式拾錢（八四回分） 千脇 尚徳君
- 金五円（四回分） 千葉 彦治君

金貳拾円 (七六回分)	大岩 勇夫君	金五円 (三九回分)	鶴田 恣君
金貳円 (四四回分)	大照 常弘君	金貳円八拾錢 (自八二回分 至八九回分)	常川元次郎君
金五円 (四二回分)	岡田榮太郎君	金貳円五拾錢 (四〇回分)	根本仙三郎君
金貳円八拾錢 (五四回分)	岡崎熊三郎君	金貳円 (八一、二回分)	根津 千治君
金五円 (八五回分)	大内省三郎君	金貳円五拾錢 (三五回分)	中村 定君
金五拾錢 (九〇回分)	大島恒治郎君	金貳円八拾錢 (一〇回分)	中村 正臣君
金拾貳円 (七三回分)	岡田宇之助君	金五円 (六七、八回分)	内藤諒太郎君
金四円 (四〇回分)	小山田 實君	金拾円 (四〇回分)	中野勇治郎君
金貳円 (九回分)	加藤 兵衛君	金貳円 (自八二回分 至八九回分)	村上民三郎君
金五円 (八一回分)	上内恒三郎君	金壹円貳拾錢 (自八二回分 至八九回分)	村上 太七君
金貳円 (一九、二〇回分)	筈原 正史君	金貳円 (四〇、一回分)	内田 留吉君
金貳円 (八五、六回分)	加藤 一郎君	金五円 (八三回分)	山田 三郎君
金貳円 (八一、二回分)	金澤 卯一君	金貳円五拾錢 (九〇回分)	柳田宗一郎君
金參拾參円六拾錢 (自八二回分 至八九回分)	河野 秀男君	金貳円五拾錢 (九一回分)	山崎林太郎君
金貳円五拾錢 (九二回分)	頼信藤四郎君	金貳円五拾錢	矢野 光宏君
金貳円 (自八二回分 至八九回分)	吉村長次郎君	金五円 (一二回分)	升本 重夫君
金壹円六拾錢 (自八二回分 至八九回分)	吉澤 米藏君	金貳円 (七六、七七回分)	牧野 充安君
金貳円八拾錢 (七一回分)	谷村 唯一君	金貳円 (五八回分)	松隈 昌隆君
金貳円五拾錢 (七八回分)	高柳覺太郎君	金參円 (五六回分)	松本 安藏君
金貳円 (一九、二〇回分)	竹井小野右三門君	金五円貳拾錢 (自八二回分 至八九回分)	松岡 高明君
金參円 (二三回分)	田中 武君	金貳円八拾錢 (自八二回分 至八九回分)	榎 重美君
金拾円 (二、三回分)	高木 信威君	金貳円八拾錢 (四七回分)	後藤傳兵衛君
金貳円八拾錢 (四四回分)	竹内 靜三君	金貳円 (一五回分)	小島藤一郎君
金五円 (二三回分)	坪山彦四郎君	金貳円八拾錢 (二六回分)	小林新太郎君

金貳円 (七七、八回分)	五味 逸平君	金參円 (六一、二回分)	重信喜太郎君
金四円 (四一回分)	荒井 操君	金四円拾五銭 (四九回分)	下村善重郎君
金貳円八拾銭 (四五回分)	淺野松次郎君	金貳円五拾銭 (七〇回分)	篠原 泰助君
金參円 (八三回分)	赤井 定義君	金貳円 (四五、六回分)	設樂 義男君
金五円 (八六回分)	安達駿三郎君	金四円 (自八二回分 至八九回分)	椎谷 榮作君
金貳円七拾五銭 (四九回分)	淺沼彦一郎君	金五円 (四〇回分)	平尾縫太郎君
金拾五円 (自八八回分 至九〇回分)	安達元之助君	金貳円 (八三、四回分)	平山 勘次君
金參円 (四三回分)	秋本九十九君	金貳円 (一八、九回分)	森 龜雄君
金六円 (三回分)	東 一雄君	金貳円 (七五、六回分)	森 源作君
金參円 (一二回分)	佐々木三郎君	金貳円 (四七回分)	砂田精次郎君
金貳円 (四四回分)	菊池 四郎君	以下次号	
金貳円 (一四回分)	金 志健君		
金貳円五拾銭 (八七回分)	木戸 梅藏君		
金壹円 (五八回分)	木村競次郎君		
金拾七円六拾銭 (自八二回分 至八九回分)	木村 精一君		
金貳円八拾銭 (三七回分)	三上 直吉君		
金貳円五拾銭 (三〇回分)	水谷 團治君		
金貳円 (一三二回分)	峰松茂三郎君		
金壹円五拾銭 (五一回分)	水町 新三君		
金拾円 (七七回分)	水野 博徳君		
金九円六拾銭 (自八二回分 至八九回分)	水島 房吉君		
金百円 (九回分)	三浦 義道君		
金貳円五拾銭 (七八回分)	白鳥保五郎君		
金貳円 (三六回分)	柴田 廣吉君		